

## 急性心筋梗塞患者に対する入院後24時間以内のアスピリン投与率

## 目的

臨床指標

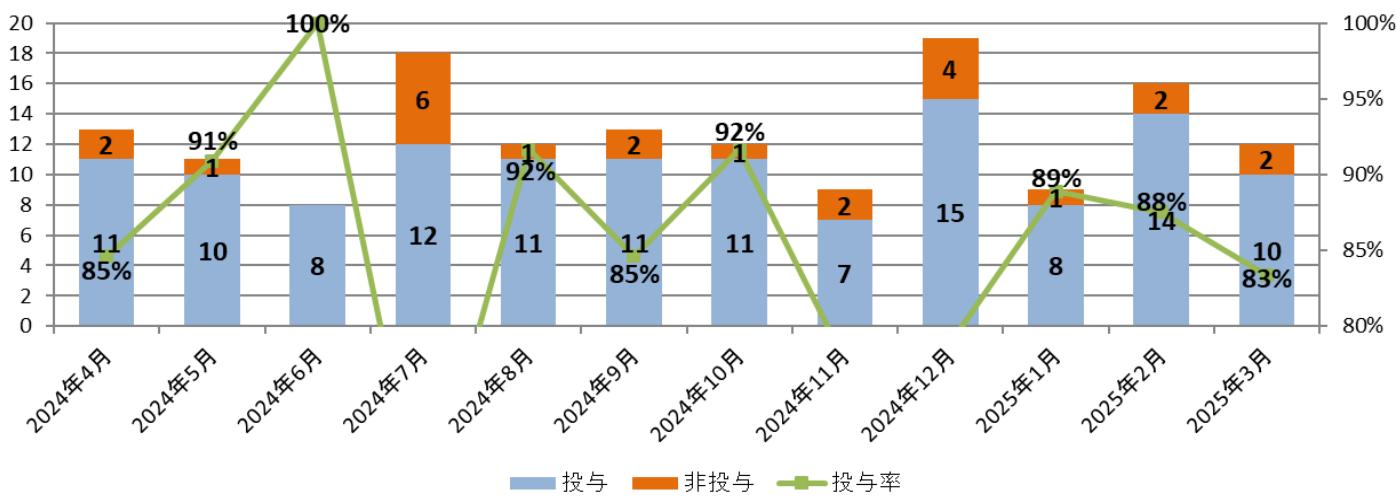
## 分母

傷病名(入院の契機となった傷病名)が急性心筋梗塞の患者

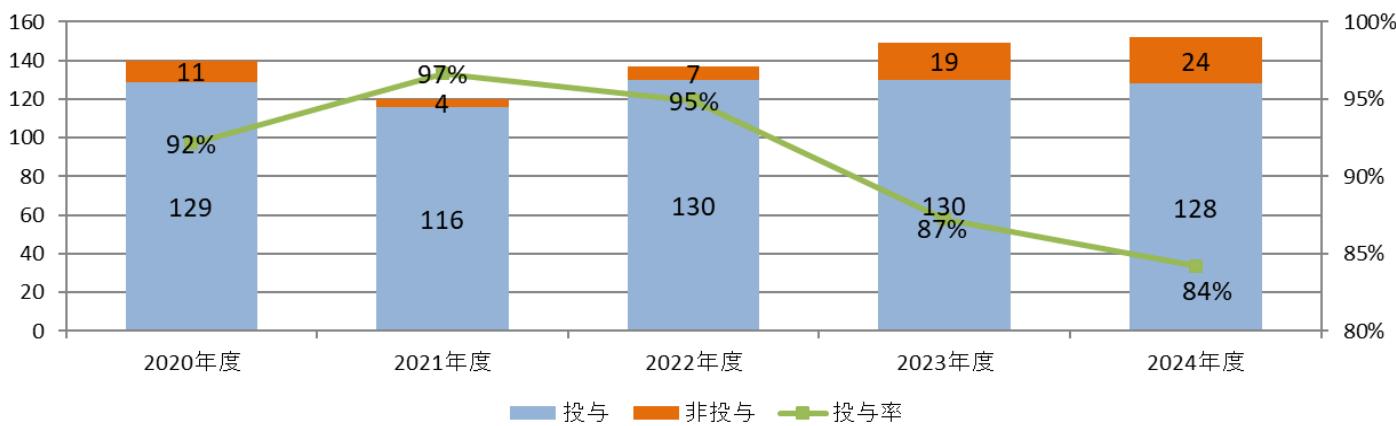
## 分子

分母患者のうち入院後24時間以内にアスピリンを投与した患者

## アスピリン投与率(2024年度月別)



## アスピリン投与率(年度別)



## データ分析コメント

急性心筋梗塞に対する入院後24時間以内のアスピリン投与率は、「エビデンスに基づく標準治療が確実に実施されているか」を測る医療のプロセス指標であり、国際的にも日本国内でも、急性冠症候群治療の質を評価する最重要ベンチマーク指標の一つとされています。本来は99%以上が目標ですが、当院で達成していない理由は二つあげられます。一つはすでに内服している方には追加投与は必要ありません。二つめは重篤で経口で内服が不可能な例、または到着時死亡例などの重症例が当院で多いためです。生存例では、内服可能となったら直ちに投与しており、それまでは注射薬にて抗血小板療法をおこなっております。